



井上 愛子の

# 人生でやりたい

THE BUCKET LIST

# 100のリスト

13

**AIKO INOUE**

1986 年生まれ。  
第1回 J.S.A. ソムリエ・スカラシップ最優秀賞。  
J. S.A. 認定ソムリエ  
C.P.A. 認定チーズプロフェッショナル  
AISO 認定オリーブオイル ソムリエ

旧姓・大森。  
結婚して偶然にも井上塾長と同じ姓になりました。  
現在 徳島県在住です。



THE BUCKET LIST

BUCKET LIST 13

ベルリンの壁を見に行く

平成生まれの方はピンとこないかもしれませんが、とうか1986年生まれの私でも実感は無いのですが、ほんの30年前までドイツは西と東で全く別の国でした。

もはや2001年のアメリカ同時多発テロすら歴史上の事件となっているZ世代からすると西ドイツ、東ドイツという言葉すら聞いたことがないかもしれません。

西とか東は単に地理としての意味ではなく、韓国と北朝鮮くらいガチで別々の国を指したのです。

1945年、第二次世界大戦で敗北したナチスドイツは、戦勝国であるアメリカ、イギリス、フランス、ソ連の四カ国によって四分割して統治されることになりました。

首都ベルリンは東側に位置するためソ連の統治地区にあたりますが、首都ということでベルリンについても特別に先ほどの四カ国で分割して占領されることに。

ところが数カ月も経たないうちに資本主義体制の米英仏

THE BUCKET LIST

と社会主義体制を敷くソ連との関係が悪化し始めます。  
冷戦への突入です。

その後ドイツ西々南にかけての米英仏の占領地区は  
1949年に統一され、西ドイツとして奇跡的な経済成  
長を遂げます。

西側の生活水準が順調に向上する一方、ソ連が占領す  
る東ドイツは共産主義のもとで経済が悪化し孤立する  
方向に。こうして東西ドイツの格差はどんどん広がり、  
1950年代になると、より良い暮らしを求めて東から  
西へ逃亡する人が相次ぐ事態になりました。

禁止されているにも関わらず、1949年から1961  
年までに亡命に成功した東ドイツ人は、人口の15〜20%  
にあたる約300万人。

特に25歳以下の若者の亡命者が多かったようで、これ以  
上労働力が流出してはたまらないと、追い詰められた東  
ドイツが亡命を阻止するために打ち出した苦肉の策が、  
西ベルリンを取り囲む壁を作ること。東西ドイツの国境  
は有刺鉄線で遮断され厳しい検問が行われていましたが、  
当時ベルリンに関しては比較的自由に東西間を往来でき

T H E B U C K E T L I S T

たため、西ベルリンにたどり着くことができれば、そこから空路で西ドイツに脱出することが可能だったのです。

作戦が決行されたのは1961年8月13日深夜。市民が眠りにについている間に、ソ連と東ドイツ政府は西ベルリンを封鎖する作業を始めます。

それまで使われていた交通路や鉄道を封鎖し、道路、空き地、公園などにも有刺鉄線を張り巡らせ、武装した東独部隊を国境に並ばせました。意地でも西へ逃がさないという政府の不意打ち作戦によって、一晚にして市民は隔離されることになったのです。

翌朝目を覚ましたベルリン市民の驚きがどれほどのものだったかは容易に想像がつくことでしょう。西ベルリンへ通勤していた人は職を失い、西ベルリンで眠りにについていた市民はその日を境に国境を越えて家族や友人、恋人にも会うことが叶わなくなったのですから。

さらにひと月後の9月14日には、国境警備隊へ「西ドイツへ逃亡して拘束を逃れようとする者は、1回の威嚇射撃の後、銃撃して良い」という指示が出されます。

自粛要請なんてヌルいこと言ってないで、一回ビビらせ



THE BUCKET LIST

て聞かなかつたら即射殺です。冗談ではなく東ドイツから逃れるのが命がけになりましたが、逃亡を企てる人々の数は減らず、1961年から1989年までに東ドイツから越境した亡命者の数は5000人にも及びました。自由を、さもなければ死を。このあたりのドラマを題材にした小説や映画は数多く発表されており、当時の特異な空気感を追体験することができます。

壁が築かれて20年以上経った1985年、ソ連ではゴルバチョフ書記長による改革が進められ、やっと東側陣営の民主化が少しずつ進むこととなりました。

そして迎えた1989年11月9日、東ドイツからの出国規制を緩和する政令案が決定され、発表を聞いた市民らが手当たり次第に壁を破壊し始めます。これによって長く隔たれていた東西ベルリンの境界線は事実上なくなりました。

翌年1990年の10月、正式にドイツは再統一され、その後すぐにソ連は崩壊。

こうして30年前に破壊されたベルリンの壁ですが、現在

THE BUCKET LIST

もアーティストによってデコレーションされた壁の一部が街中に残されており、観光地として訪れる人は跡を絶ちません。

そして今回のリストにのせる項目はもちろん、ベルリンの壁を見に行くこと。

できればドイツの定番屋台料理であるカレーヴルスト（カレーソーセージ）でも食べながら、壁画を眺めて散歩したいと思います。

余談ですが、ベルリン名物であるカレーヴルストは焼いたソーセージにケチャップ味のソースとカレー粉をまぶすだけのお手軽レシピ。

日本でもビール片手にカレーヴルストをかじりながら、東ドイツを舞台とした映画『善き人のためのソナタ』や、東西ドイツ統一後の家族劇を描いた『グッバイ、レーニン！』を鑑賞すると、とってもドイツな一日を過ごせることは請け合いです。

